

## &lt; 介護・医療連携推進会議における評価 &gt; ※公表用

## 【事業所概要】

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会	事業所名	こぶし 24 時間ケアサービスステーション美沢
所在地	(〒 940 - 0856 ) 新潟県長岡市美沢 4 丁目 2 1 1 番地 6		

## 【事業所の特徴、特に力を入れている点】

24 時間 365 日営業。住み慣れた地域の中で築き上げた暮らしを支えていく。  
情報共有にはタブレットを使用し、多職種連携にも活用している。

## 【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2018 年 8 月 31 日	従業者等自己評価 実施人数	( 13 ) 人	※管理者を含む
----------------	--------------------	------------------	----------	---------

## 【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2019 年 1 月 17 日	出席人数 (合計)	( 13 ) 人	※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	■自事業所職員 ( 3 人)   ■市町村職員 ( 1 人)   ■地域包括支援センター職員 ( 1 人)   ■地域住民の代表者 ( 0 人) ■利用者 ( 0 人)   ■利用者の家族 ( 0 人)   ■知見を有する者 ( 3 人)   ■医療従事者 ( 5 人)   ■その他 ( 4 人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	法令順守についての指導・研修を定期的に行う。 研修の方法の改善を行う。(その後の理解が出来ているのか確認する仕組みの構築、振り返りを行うなど)	定期研修や指導は行ってきたが <u>その後の理解が得られない職員がいることも見受けられた</u> 。研修の改善は確立できなかった。 個人情報の流失を反省し持ち出しのルールを設定し実施している。	定期的な研修は行っているが、研修実施後の評価することを考えてほしい。 法令順守(個人情報保護)、職員の安全確保の仕組みを検討してほしい。	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21)	医療面との情報共有を活用しサービス提供に活かす。 利用者、家族の希望、状況変化に合わせた柔軟なサービス提供を行う。 訪問看護のアセスメントを有効活用していく。訪問看護の必要性を説明していくことで導入につなげたい。	医師、訪問看護、リハビリ等にアドバイスをもらいサービス提供を実施した。 利用者、家族と日々コミュニケーションをとり、要望を聞き出しサービス提供している。また、 <u>家族等の要望以外でも必要であれば提案しサービス提供した</u> 。	利用者の一日の生活の把握に努めて、必要な時間への支援を提案している。職員の配置に苦労はあるだろうが、柔軟に対応している。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22～27)	利用者が安心して暮らせるよう多職種との連携を行い、利用者へのサービス提供への対応に活用する。	退院時カンファレンス、サービス担当者会議等参加して情報収集してきた。ICT活用は有意義なツールとなった。	ICTは有意義だが依存しすぎずに、基本に戻り電話連絡など直接連絡することも必要だと思う。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 28～32)	利用者が安心して地域で暮らせるように地域との関わりのサポートを行う。 事業所が地域で出来る取り組みを見い出していく。	今までサポートセンターと地域との交流へは参加したが、事業所独自で行うことはなかった。	まちづくりは難しい課題で評価しづらいが、継続が必要。
III. 結果評価 (評価項目 33～34)	本人・家族が望む暮らしが継続出来るよう一緒に考え、医療面のサポートを受けることで安心して生活していただく。	医療面のサポートは受けることができ、安心した生活の提供は継続できた。	住み慣れた地域で、医療や他のサービスと協働で支えている。24時間のサービスは利用者、家族等の安心になる。	

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します



■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画	
<p>I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)</p>	<p>より実践的な研修を検討する。 職員の安全確保やオペレーターの判断基準など想定をしておくことが必要。</p>	<p>研修後の評価をする仕組みを実現させる。 法令順守（個人情報保護）、職員の安全確保のための仕組み作りを明確にさせる。</p>	
<p>II. サービス提供等の評価</p>	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21)</p>	<p>医療面のサポートを強みにサービス提供をすすめていく。 利用者の変化等には柔軟な対応が出来ているが、医療の観点からも、変化への早期対応が必要。</p>	<p>訪問看護の導入へヘルパーからも利用者、家族、ケアマネに発信していき早期導入につなげていく。 利用者、家族の希望への柔軟な対応のほかヘルパーの視点から情報提供を行いサービス提供を提案する等一緒に支える視点を身に着けていく。</p>
<p>2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22～27)</p>	<p>I C Tを活用することは有意義であるが、しっかりと情報共有できる仕組みにしていく必要あり。 各種会議への参加だけでなく、ヘルパーからの提案等をしていく。</p>	<p>多職種との連携、会議参加にとどまらずに、ヘルパーからも相談提案していく。</p>	
<p>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 28～32)</p>	<p>まちづくりへの関わりは難しいが継続し取り組んでいく。</p>	<p>サポートセンターの一員として地域の関わりは継続していく 何が出来るか見い出すことは継続し検討していく。</p>	

Ⅲ. 結果評価 (評価項目 33～34)	利用者、ご家族の意向に沿ったサービス提供をしていく。	利用者を中心に医療面や他サービスとの連携を行いサービス提供していく。家族、地域を巻き込みながら地域で支える仕組みを提供していく。
-------------------------	----------------------------	--

※自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します